

第12回

住まいと

コミュニティ

づくり

活動助成



活動地域：愛知県名古屋市

概要：

揚輝荘は1918年（大正7年）に約1万坪の森を切り拓いて造られた別荘で、現在は、緑豊かな約300坪の敷地内に、数棟の貴重な建物と池泉回遊式庭園が残っています。現在その再開発計画が進んでおり、主要部分は名古屋市に寄付される予定で、当団体は、公有民営で保全・管理を行うことを視野に、市民の生涯学習・国際交流コミュニティの構築のための準備活動を行っています。助成対象活動では、建物の実測調査や整備などの保全活動を行うとともに、シンポジウムやコンサートなどのイベント、会報の発行やパンフレットの頒布、来訪者の受け入れなどのPR活動を行いました。イベント（全5回）にはのべ千数百名の参加があり、市民の関心の高さが覗われます。保全活動では、建物清掃・整備20回、庭園清掃・整備30回を実施しました。2005年度も継続して助成を受け、これらの活動を継続するとともに、資料の整備やNPO法人化の検討を行っています。

〔揚輝荘の会〕

- ・ 代表者：鈴木 賢一
- ・ 連絡担当者：佐藤 允孝
- ・ 連絡先：〒464-0025 愛知県名古屋市千種区桜が丘166
- ・ TEL：052-781-6079
- ・ FAX：052-781-6079
- ・ E-mail：satoyosi@sd.starcats.ne.jp
- ・ ホームページ：

1 団体の目的と経緯

目的：

市へ寄付される「揚輝荘」の保存活用

経緯：

名古屋市千種区が企画した「城山・覚王山地区魅力アップ事業」実行委員会の「歴史ワーキング」に参加した有志が結成した。将来民間に管理運営が任されることを見据えている。

「揚輝荘」は、建築、歴史・文化、自然・庭園、国際交流など多彩な顔を持った地域の資産である。揚輝荘の会は、2年前に名古屋市千種区のまちづくり実行委員会から誕生し、多彩なメンバーで構成されており、現在会員数は、約90名。

会では、建物や庭園の清掃・整備活動を行うとともに、市民参加型イベント（園遊会、音楽会、茶会など）、ガイド・解説、展示会などを開催してきた。

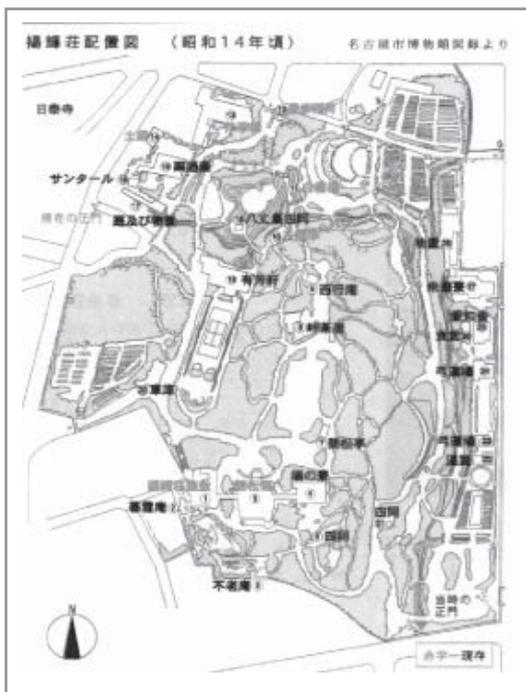
現在、揚輝荘の再開発計画が進んでいるが、主要部分は公開空地として名古屋市に寄付される予定であり、当会は公有民営の形でそれを保全・活性化・管理することを視野に置き、市民の生涯学習コミュニティ、国際交流コミュニティの構築のための準備活動を続けている。

2 活動の内容

(1) イベントの開催

4月4日(日)

「春の揚輝荘を楽しむ会2004」の開催



揚輝荘配置図(昭和14年頃)

- ・市民参加のミニ園遊会、250名参加、留学生数名参加
- ・琴演奏、野点、模擬店、近代建築・庭園のガイド、歴史展示
- ・会員のネットワーク(ちらし)でPR、参加者へのPR・アンケート

4月24日(土)

「揚輝荘の会・2004年度総会・講演会・懇親会」の開催

- ・総会：前年度事業報告、決算、今年度事業計画、予算(20名)
- ・講演会：林広伸氏「修復の現場から」(30名)
- ・懇親会：35名

10月26日(火)

「お月見コンサート2004」の開催

古くからの月見の名所に因み、十三夜(栗名月)に池に架かる橋の上でチェロの演奏、聴松閣で中国琵琶(演奏者・Ting Tingさんは中国からの留学生)のコンサートを開き、広く市民の参加を得た。(200名)留学生数名参加。準備作業として会場周辺の樹木の選定、清掃・整備を行った。

11月23日(火)

「紅葉を楽しむ会2004 in 揚輝荘」の開催

揚輝荘庭園は、紅葉の季節が最も美しい。バイオリン、琴の演奏の中で弁当、模擬店、野点を楽しむ園遊会を開催した。写真展や現代生け花展も併催(500名)、留学生も数名参加。準備作業として建物・庭園の清掃・整備活動を行った。

3月20日(日)

「日本の伝統文化に親しむ会」の開催(財団法人県国際交流協会補助事業)

揚輝荘が戦前のアジアの留学生の交流の場であったことに因み、広く留学生に参加を呼びかけ、茶



揚輝荘のランドマーク 聴松閣

道・華道の解説・体験を通して、日本の伝統文化に触れてもらい、市民との交流の場となった。日本人参加者にも好評（60名、内外国人十数名）

3月20日（日）

「やまのて音楽祭 2005」への参加

音楽ラリー（弦楽アンサンブル、ギター、カンターレ、オルガン）を開催（各60名）。夕方からは、北インド音楽の演奏会を行った（70名）。

（2）建物修繕

茶亭・三賞亭実測、整備

三賞亭は、大正7年揚輝荘へ最初に移築された観月茶亭。数十年間、使われたことが無く放置されていたが、これを再構築して再活用することを企画した。

まず、名古屋市立大学に依頼して実測・図面を作成。並行して、大掃除と建具の補修、障子の張替、ござの敷詰（予算の関係で畳の取り替えまではできなかった）などを行った。

その後、電気・上水の引き込み、柱・屋根・壁の一部補修を加え、茶室として復活させることができた。丸窓や雪見障子をとおして紅葉が池に映える素晴らしい眺めが数十年ぶりに蘇った。年末には、茶室開きも行った。

聴松閣の清掃・整備

聴松閣の屋根組は複雑である。3階の上に展望台があり、石張りの煙突が2本も立っており、外観は風格があるが、それだけに雨漏りの危険性が高く、地階が漏水・浸水でカビが生え、木部が腐食していた。まず大掃除を繰り返すとともに、漏水の原因究明の調査をいろいろの角度で行った。排水経路、屋根・樋・庇などの修理を、プロの手も借りて何度か行った。しかし、こちらもやはり予算の関係で完全には修理できなかったが、暫定的な応急処置は達成できたと考えている。



イベント開催時にメンバーが建物内部を説明している様子

（3）庭園整備

庭園勉強会（自然観察会）

揚輝荘の庭園は、修学院離宮を手本にしたといわれているが、池に架かる白雲橋や聴松閣南石庭はそれを超えているとも思われる。樹木も数十年放置され、創建当初の面影は失っている面もあるが、それだけに大木・銘木が残されており、この都会の中の緑地を今後どう再生していくのか（日本庭園か、里山庭園か、自然林か）が課題である。そのための調査・研究活動として、専門家を招いて庭園勉強会、自然観察会を繰り返すとともに「庭園樹木マップ」の作成を進めた。

庭石実測、移設

揚輝荘庭園の特徴として、灯籠、五輪塔などの石造物や名石・奇石が多く残されている。これらを実測して「庭石マップ」を作成した。

また、マンション開発にかかる部分については、造園家の指導を受けて石の移動・再配置を進めた。掘り起こしにより名石・奇石の発見もあった。

庭園の清掃・整備

庭の落ち葉掃き、竹刈りを継続的に進め、やきいも（落ち葉焚き）や竹の子掘りも楽しんだ。会員のボランティア活動だけでは手が足りず、シルバー人材センターにも依頼して、下草刈り・石の腐葉土掻きも行った。聴松閣南庭のほぼ全容が現れ、往時の見事な石庭が偲ばれるようになった。

（4）PR・交流

会報「揚輝荘だより」発行

年4回を目標に会報「揚輝荘だより」を発行した。賛助会員にも送付して、情報提供、会活動のPRを促進した。

パンフレットの制作

昨年作成した揚輝荘パネルを原稿にして、パンフレット「揚輝荘」および「揚輝荘こぼれ話」を作成



茶亭・三賞亭

して頒布した。

マスコミ対応

テレビ(テレビ愛知、スターキャット) 新聞(朝日、中日) 雑誌(中部財界、なごや発)などのマスコミ取材に対応し(18回) 揚輝荘および揚輝荘の会のPRを図った。

案内・ガイド

守山ロータリークラブ、愛知建築士会、都市政策懇話会(都市センター)など63組の案内・ガイドを行い、揚輝荘の歴史・文化価値の理解普及に努めた。

交流会

まちづくり交流会(都市センター、区役所)や外部の各種セミナー・シンポジウム(指定管理者制度など)に十数回参加して、情報収集とネットワーク形成を図った。

(5) 理事会

全正会員に参加を呼びかけて、毎月1回、拡大理事会を開催し、会の運営について協議・推進した。(15~20名参加)

(6) その他

トンネルの調査:聴松閣から旧有芳軒へ通じていた(姫ヶ池通りにもT字に分岐していた)大トンネルが残っていることは分かっていたが、長年クローズされていた中へ入って調査・撮影をした。中日新聞の夕刊1面トップに取り上げられ、大きな反響を呼んだ。その後、数次に亘り、調査を続けた。

3 活動の成果

(1) PR効果(特に国際交流)

市民参加型のイベントは、毎回、常に予定を上回る参加者(年間延べ千数百人)があったが、特に留学生など外国人の参加が増えたことは、当会がめざす「異文化交流広場の構築」という国際的な分野で



庭園での自然観察会

の事業展開に効果的であった。各大学を中心にした留学生のチャンネルも拡大することができ、今後の活用が期待される。

また、これまで非公開であったこともあり、初めて訪れた人も多かったが、アンケート調査でも、市民参加のイベントや建物・庭園の案内の他に、外国人との交流を望む声も多く聞かれた。当会の活動が公有民営化に備えて、市民へのPR・活用のコンセンサスが促進できたものと考えられる。

(2) 保全活動

名古屋市に寄付されるまでの期間、放置されると建物は漏水・カビにより劣化し、庭園は荒れ果てる。これらの保全活動が喫緊の課題であった。

今年度は、建物清掃・整備活動20回、庭園清掃・整備活動約30回を行った結果、資源の維持・保全活動が達成できたと考える。

(3) 会の体力強化

前記の諸活動には、会員・会員外の多数のボランティアの参加を得て、会の経験・ノウハウが蓄積された。指定管理者に向けての受け皿づくりが進んだと思われる。

(4) 成果物

ちらし、三賞亭実測図、庭園マップ、庭石マップ、会報、パンフレット、こぼれ話、新聞記事など。

4 今後の取り組み

(1) イベント

定例となった「春を楽しむ会」「お月見コンサート」「紅葉を楽しむ会」「やまのて音楽祭」を四大イベントとして継続していく。また、今回からスタートさせた、国際交流をキーワードにした、「留学生と市民の交流」「日本文化の紹介」などのイベントを継続的にシリーズ化して開催していきたい。参加者としての留学生・外国人のチャンネルを更に拡大し、ネットワークを構築するとともに、市民との交流の



日本の伝統文化に親しむ会
茶道を説明している様子

場を提供したり、近隣大学との協働事業として推進することも検討していきたい。

(2) セミナー

建築、歴史、文化、自然、庭園など、多角的なテーマに亘って数十名規模のミニセミナーをシリーズとして開催する。

(3) 保全活動

建物の漏水・腐食防止、樹木の剪定、庭石の再構築などミニマムの整備・保全をボランティア活動を中心に継続して行く。

(4) 資料の整備

これまで蓄積した、写真・資料・地図などを集大

成し、「揚輝荘パンフレット」「ガイドマニュアル」の作成を進める。一般書籍「揚輝荘」の発刊も検討していく。

(5) PR活動の強化

ホームページ開設、紹介ビデオ、プレゼンテーション・パワーポイント、会報・リーフレットの継続など会員および一般市民へのPR活動を更に強化する。

(6) NPO法人化

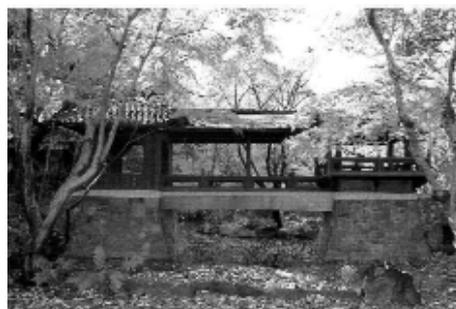
名古屋市に寄付された段階での指定管理者を目指して、NPO法人化を進めていきたい。



団体のパンフレット



三賞亭実測図



庭園池の白雲橋